

令和6年度 評価規準

学 年	科目名	単位数	担当者名	使用教科書・副教材
第3学年	論理国語	2	千葉 彩未	新編 論理国語
内容（1）言葉の特徴や使い方に関する事項				
知識・技能	<p>ア 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</p>			
主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。</p>			
内容（2）文章に含まれている情報の扱い方に関する事項				
知識・技能	<p>ア 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <p>イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。</p> <p>ウ 推論の仕方について理解を深め使っている。</p>			
主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。</p>			
内容（3）我が国の言語文化に関する事項				
知識・技能	<p>ア 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。</p>			
主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。</p>			
内容 A 書くこと				
思考・判断・表現	<p>ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。</p> <p>イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。</p> <p>ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。</p> <p>エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。</p> <p>オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰(せき)さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。</p> <p>カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p>			
主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。</p>			

内容 B 読むこと

<p>思考・判断・表現</p>	<p>ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。</p> <p>ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p> <p>エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>オ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。</p> <p>カ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。</p> <p>キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。</p>